

森のようちえん まめとっこ

自然保育推進事業活動報告書

まめとっこの一年間

わたしたち森のようちえん まめとっこは、安佐南区祇園・山本・大塚、西区三滝の森や古民家を、季節や天候・子どもたちの姿に合わせて選びながら活動してきました。

春は特別な配慮のもとで活動フィールドを選び、環境構成をしました。新入園の子どもたちがお母さんから離れての森での活動に慣れやすいように、祇園の森を主に活用しました。広場、水場、岩場、山道、いろんな角度の斜面、草花（食べられるものから毒草まで）、砂、泥、木、生き物…さまざまな表情を備えた活動場所があり、子どもたちの様子を見てその日の遊び場を決めました。同じ場所においても、その子自身の心身の状態によって見えるもの、遊びが無尽に生まれます。他の子の姿も環境のひとつ。他の子が遊ぶ姿を見て感じて、一人ひとりの遊びを通した育ち合いが動き始めます。



新入園保護者も参加しての慣らし保育。慣らし保育ではあえてアクティブな活動で視野を広げました。



慣らし保育で、新入園児の身のこなし・他の子とのかかり方や距離・興味関心、集団全体の動きを観察します。



預かり初日。お母さんと離れて心細い子も安心できるスペースを自然な遊びの流れの中で意識して設けました。



沢の底をちょろちょろ流れる水をビニール袋で集めます。袋の口の向きなど、他の子の姿を見て覚えていきました。

夏は鮮やかな色彩が際立つとき。日差しの強さと相まって、影も濃く、雨も強く、生き物の生命力も強く感じられるときです。子どもたちもそれぞれの色が強く出て、主張がぶつかることも増えましたが、遊びのダイナミックさも勢いを増しました。体力がついてくるので、行動範囲も広がりました。



池の中でびしょ濡れになって遊んだ子がぬかるみで長靴をなくし、大人が探す。見つかりませんでした^{^^}；



浅い水場と日陰が広い場所で。友達と笑い合いながら、足・おしり・下半身・上半身…と水浸しがおもしろい。



カエルやサワガニ、カワニナ。おそろおそろ手を出して、はじめて仲よくなれた瞬間の誇らしげな笑顔です。



ケンカも多かった男の子たち。少しずつ相手を知り、自分の出し方引っ込め方を知り、近づいていきました。

秋の深まりとともに子ども同士の関係がおちついてきました。じゅうだま・紫蘇の実・サツマイモ・むかご・ナツハゼ・柿などなど…自然や畑での実りをさまざまなかたちで味わうことが増えました。子ども自身が試行錯誤して感覚でつかみとる余白が、まめとっこにはたくさんあります。



畑で収穫した青紫蘇の穂。実をしごきとって、塩漬けにしました。じゅうだまの処理にも熱中していました。



木登り、ロープ、棒を駆使して一生懸命木から落とした柿ですが…食べたら渋かった！これも経験です。



いつからリュックの預け合いがブームに。たくさん持ちたい子、預けたい子、思惑が入り交じっていました。



浅い水場と日陰が広い場所で。友達と笑い合いながら、足・おしり・下半身・上半身…と水浸しがおもしろい。

冬の寒さが、子どもたちを近づけます。春の芽吹き・巣立ちに備えて、小さく縮こまりながらも頭やこころをたくさん動かして、子どもたちはぐっと力を蓄えました。そんな子どもたちの育ちを支えるのは、森と仲間と大人たち。常に表情をかえる森から遊びの材料やインスピレーションを受け取って、仲間とともにそれを展開していきます。大人は大きな危険がないよう配慮しながら見守り、遊びのたねを子どものそばにそっと落としておいたりするのです。



暖冬の今年は雪や氷にほとんど出逢えませんでした。が、葉っぱについている雨粒を見つけて、お口にぱくっ！



今年も冬いちごをたくさん収穫。ジャムをつくりました。いいにおいとあたたかい蒸気に誘われてきた子どもたち。



フィールド管理者のおじちゃんと力を合わせてつくったツリーの周りに自分たちでつくった蜜蝋キャンドル・ホルダーを並べて火を灯しクリスマスのお祝いをしました。



森から竹を伐り出して、竹ぼっくりや秘密基地をつくりました。子どもたちがノコギリを握って枝を落としたり細い竹を自力で伐り出して充実感がみなぎりました。

特別な活動にも取り組みました

まめとっこは拠点の森や施設をもたずに活動する森のようちえん。さまざまな森に出かけるよさ…子ども一人ひとりに合った遊びや多種多様な遊びに触れて深められる遊びの経験は普段の活動で、拠点がないことで失いがちな連続性・連鎖性のある活動は特別なプログラムで補っています。

●養蜂遠足（蜂を知る・蜂蜜を採る・蜜蝋を感じる）

～蜜蝋キャンドルづくり

～木の実拾い

～キャンドルホルダーづくり

～クリスマスツリー・飾りづくり

～クリスマスツリーを蜜蝋キャンドルで囲んでクリスマス会



蜂はこわいだけじゃなくて、甘くておいしい蜂蜜をプレゼントしてくれる友達なのだを知ることができました。



白い蜜蓋を外して遠心分離機にかけます。巣板から直接蜂蜜をすくいって嘗めるのには大人も大興奮でした！



養蜂遠足で蜂蜜を嘗めて口の中に残ったものと白い蜜蓋が蜜蝋だったんだ！と知ってからのキャンドルづくり。例年より深く蜜蝋を味わえたように思います。



みんなで地道に集めた木の実と自分たちで買い物した木の輪切りでキャンドルホルダーを制作しました。それぞれのこだわりや美的感覚がつまっています。

●和棉ワークショップ（和棉に触れる・たねをとる・綿打ちする・糸紡ぎに挑戦する）

●学年別保育

年長…交通安全教室、年長登山（全3回）、手縫い・草木染めでマイ手提げ袋づくり

年中…バンダナ・紐を結んで遊ぼう、草木染めでお弁当包みづくり

年少…粘土と紐で青虫づくり、はさみで線の上を切ろう、針と糸で首飾りづくり